【 123 】

氏名	佐 長 正 則
学位(専攻分野)	博 士(医 学)
学位授与番号	博 乙 第 2414 号
学位授与の日付	平成 4 年 3 月28日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Histochemical and Immuohistochemical Analyses of Primary Carcinoma of the Liver (原発性肝癌の組織化学・免疫組織化学的検討)
論文審査委員	教授 赤木 忠厚　教授 辻 孝夫　教授 難波 正義

学位論文内容の要旨

47例の原発生肝癌剖検例について，Hematoxylin－Eosin（HE）染色を用いて検討した結果，肝細胞癌43例（索状型30例，充実型7例，偽線管型5例，硬化型1例），胆管細胞癌3例，肝細胞癌・胆管細胞癌混合型1例であった。

免疫組織化学染色を用いて検討すると，Epithelial Membrane Antigen（EMA）は非癌性胆管および胆管癌に強陽性で，正常肝細胞に陽性であったが，肝細胞癌では染色性が低下していた。

特記すべきことは，EMAではHE，Alcian Blue（AB），cationic ferric hydroxide colloid stabilized with cacodylate（Fe－CaC）で識別できなかった微小胆管腔を容易に識別できたことである。HE染色で肝細胞癌として分類した43例中7例にEMA陽性の微小管腔を有する症例が認められたので，免疫組織学的所見に基づき再分類した結果混合型は合計8例（17.0%）となった。

本邦においては混合型肝癌は1.5～2%と報告されているが，以上の結果より肝細胞癌・胆管細胞癌のより正確な分類にはEMA染色が必要であると結論した。

なお，本論文は共著論文であり，共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査の結果の要旨

本研究は，原発性肝癌について組織化学，免疫組織化学的に研究したものであるが，

EMAに対する単クローン抗体を使用することにより，従来の方法では識別できなかった微小胆肝腔を容易に識別できること，従って混合型肝癌の診断にはEMA染色が有用であることを明らかにしたもので価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。